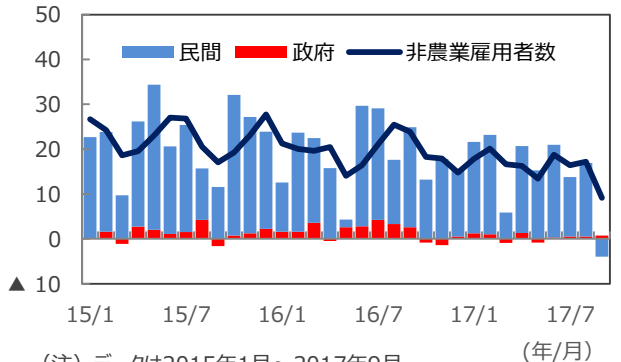


今日のトピック 天候の影響を受けた米国の雇用統計（2017年9月） ハリケーンの影響を除けば、基調はしっかりしている

ポイント1 雇用は約3万人の減少 ハリケーンの影響と見られる

- 2017年9月の非農業部門雇用者数は、前月比3.3万人の減少となり、ブルームバーグ集計による市場予想の同8.0万人増を下回りました。
- 米国南部を襲ったハリケーンの影響によると考えられます（雇用者としてカウントされるには、調査対象週に、労働して賃金の支払いを受ける必要があります）。実際、「天候が原因で働けなかった労働者」の数は147.4万人と、寒波に見舞われた96年1月の184.6万人以来の高い水準となりました。

▲ (万人) 【非農業雇用者数の推移（前月比増減）】

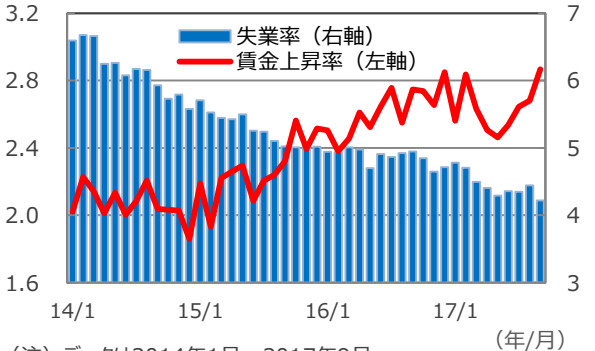


(注) データは2015年1月～2017年9月。
非農業雇用者数は3カ月移動平均ベース。
(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 失業率は低下 賃金上昇率は加速

- 失業率は前月比0.2ポイント低下の4.2%となりました。労働力人口を上回るペースで、就業者数が増加したためです（雇用関係さえ維持されていれば、就業者としてカウントされます）。
- 賃金上昇率は前月比で+0.5%、前年同月比では+2.9%となりました。8月のそれぞれ+0.2%、+2.7%から加速しましたが、ハリケーンの影響で上振れした公算もあり、注意が必要です。

▲ (前年同月比、%) 【賃金上昇率と失業率】 (%)



(注) データは2014年1月～2017年9月。
(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 金融緩和の解除は慎重に進められる見通し

- 雇用統計が公表された6日の米国市場は、株価、債券価格とも下落（債券利回りは上昇）しました。失業率の低下や賃金上昇率の加速など、雇用統計の内容は概ね米景気の順調な拡大を示すものでしたが、北朝鮮によるミサイル発射が近いとの観測が相場のかく乱要因となりました。一方、外為市場では、リスク回避の円買いが優勢となりました。
- 9月の雇用減は、天候の影響を受けた一時的なものである可能性が高く、米連邦準備制度理事会（FRB）の景況判断を大きく変えるものではないと考えられます。従って、FRBは引き続き金融緩和の解除を進める見込みです。ただし、物価上昇率が低い水準にとどまっていることから、緩和解除のペースは引き続き緩やかと予想されます。

ここもチェック! 2017年10月 5日 米国債券市場の動向（2017年9月） 2017年 9月21日 米国の金融政策（2017年9月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。